

信州大学における交換留学生の活用について

—韓国語・韓国文化講座の場合—

延 鎮淑 (ヨン・ジンスク)¹

1. はじめに

信州大学は、世界の様々な国の大学と学術協定を結んでいる。韓国のカトリック大学、光云大学とは2001年に国際学術交流協定が締結され、これにより1年間の交換留学制度が始まった。2002年度より毎年、上記二校から数名の交換留学生が各1年間信州大学に来て、日本語や日本文化を学んでいる。

交換留学生は、各自の専攻と関連のある授業や関心のある分野の授業に参加して、専門知識のレベルの向上、より高度な日本語の習得に励んでいる。また一方では日本人学生や地域の人々との交流を通じて、生の日本文化を実体験している。

交換留学生にとって、1年間の留学期間は、実りのある貴重な時間であることは言うまでもないが、机を並べて共に授業を受ける日本人学生にも得るものが多いだろう（「4. 2」を参照してほしい）。

留学先の国で交換留学生をどのように活用するかは、教育的観点からみても大事なことと思われる。活用次第では留学する側と受け入れ側の双方にメリットがあるからである。

筆者の担当している韓国語・韓国文化に関する科目においては、交換留学生制度が始まった当初から〈交換留学生の活用〉を試みた。本稿では、この活用の内容と、活用により交換留学生と日本人学生にもたらされた効果を、平成16年度後期の場合について述べる。

2. 交換留学生の受講状況

私の担当している韓国語・韓国文化関連の科目は、全部で六つ²あり、交換留学生が受講している授業は次のとおりである。

¹ 信州大学高等教育システムセンター外国人教師。

² 「韓国料理紀行南部編」、「現代韓国—若者文化を中心に—」、「言葉から見える韓国」「言葉からみた日韓比較文化」、「朝鮮言語文化特論」、「朝鮮文化事情」（16年度後期）

授業科目名	交換留学生の授業参加人数
言葉からみた日韓比較文化	6名（カトリック大学5名、光云大学1名）
韓国料理紀行南部編	4名（カトリック大学3名、光云大学1名）
現代韓国－若者文化を中心に－	5名（カトリック大学3名、光云大学2名）
朝鮮文化事情	2名（カトリック大学1名、光云大学1名）

（平成16年度後期）

3. 各授業の内容と交換留学生の活用状況

3. 1 『言葉からみた日韓比較文化』

内容：言葉を中心としている授業である。韓国語テキストを使って、基礎的な文法と韓国文化に触れつつ授業を進めている。

活用：韓国語学習の場面においては、授業中、テキストの本文を複数の交換留学生に読んでもらってから、日本人学生に読ませる。文法説明の後、その文法事項を利用した会話を、私と交換留学生とで交わして日本人学生に聞かせる。その後、日本人学生と実際に会話をする。

韓国文化学習の場面においては、あるテーマに対して交換留学生の意見を聞く。そして、日本人学生からの質問については、必要に応じて交換留学生に答えてもらう。またこの授業は、他の授業より日本人学生が少人数であり、交換留学生の参加者数が最も多いので、より親密な交流の場を作るべく、グループ討議を行った。学生を交換留学生の人数と同じ数のグループに分け、各グループに一人ずつ交換留学生を入れて、自由にいろいろなことについて討論させた。その後、各グループの代表が、話し合った内容について発表をした。学生からは、たいへん有意義な時間となったので、また同じ機会を作って欲しいという声がたくさんあった。

3. 2 『韓国料理紀行南部編』

内容：人間にとって、最も身近なテーマである食文化を紹介し、また同時にそれを生み出した国や人々への理解を深めるための授業である。毎週韓国の南部の各地方を中心とする食文化を紹介している。

活用：毎回の授業で、その日の講義の内容と関連したことを私から交換留学生に質問をし、意見を聞くことにしている。そして、その日の講義について学生が書いて出した質問に対しては、次回の授業時間に答えているが、扱った地方の出身学生がいる場合や交換留学生が答えた方が良いと判断した質問については、交換留学生に答えてもらっている。

3. 3 『現代韓国—若者文化を中心に—』

内容：韓国と日本の若者の相違点、共通点を探ってみることによって、日本人学生が韓国の若者をよりよく知り、理解すると同時に韓国と友好的に共存していく動機を見つげられるようにすることに重点をおいて、韓国の若者の事情、実態を様々な角度から紹介する。

活用：交換留学生と同世代の文化を紹介する授業であるため、交換留学生の役割は非常に大きいと言える。日本人学生に韓国の若者文化について、交換留学生の声をたくさん聞かせた。日本人学生からは韓国の若者のことについてたくさんの質問が出た。それらの質問にはその若者文化を創出している交換留学生に出来る限り答えてもらうようにした。

3. 4 『朝鮮文化事情』

内容：2年次からの人文学部学生向けの授業である。韓国文化の諸相に触れることによって、日本人が疑問に思わない、あるいは当たり前だと思っている日本文化の新発見・再認識と韓国文化や韓国人への理解を深めることに重点を置いて授業を進める。

活用：交換留学生の意見や考え方を日本人学生に聞かせた。そして日本人学生からの質問について必要に応じて交換留学生に回答してもらった。

4. 得られた効果

4. 1 講義の面

韓国語・韓国文化の授業に日本人学生と同世代の韓国の交換留学生がいることはたいへんよい環境である。交換留学生の生の声を聞くことで韓国が身近に感じられるようになって、そのことが韓国をもっと知りたいという気持ちにつながり、たくさん質問をするなど授業に対して積極的に臨んでいる様子が見えてくる。交換留学生がしっかりした自分の意見を持ち、それを大勢の日本人学生の前で述べられることなど啓発されるところが多いようである。このように様々な面で刺激となって、視野を広げることが出来、国際感覚を身に付けるなどの学習効果は非常に大きい。

4. 2 日本人学生の面

信州大学には様々な国からの留学生が多数いるが、彼らと交流の出来る日本人学生は非常に限られている。ほとんどの学生が普段の学校生活の中で留学生と接する機会がないのである。そのような日本人学生が韓国語・韓国文化の授業で韓国の交換留学生と一緒に授業を受けながら彼らの話を聞き、彼らと意見交換をす

ることは、たいへん新鮮で有意義な時間となっている。本やインターネットやマスコミなどからの韓国に関する情報より日本に来たばかりの交換留学生の話の間近で聞くことの方が、韓国の現在の様子がダイレクトに伝わってくる。韓国の交換留学生が韓国語・韓国文化の授業に参加することによって、日本人学生が得る効果は多々あるが、まず韓国語の授業の面から述べる。韓国語の授業では、教科書を複数の交換留学生に読んでもらい、それを日本人学生に聞かせた。その結果、
<ネイティブの発音がたくさん聞けて発音の勉強になり、聞き取りの練習になった、また交換留学生たちの本場の対話を聞くこともよい刺激となった> (学生の声)。交換留学生の授業参加における最大の利点は、日本人学生が交換留学生たちと友人になって、文化の異なる韓国の存在を感じ、韓国語に親しみを覚え、言葉の学習が出来ることである。韓国文化の授業では、交換留学生を通じて、日本人学生にとって、身近なテーマでありながらあまり知られてない韓国の文化が同世代の若者の目線で語られて、感じるものがたくさんあったように思う。交換留学生たちの考え方や気持ちや生活について聞き、教科書や資料などでは感じ取れない生の韓国を感じて、そこから自分たちとの共通点、相違点を発見し、韓国のことが身近に感じられるようになった。自分の国、日本のことを振り返ってみる機会ともなった。疑問に思っていたことを質問すると、直に答えてもらえることでも勉強になった。交換留学生たちが自分の国のことについて、きちんと答えてくれる姿を見て、自分たちも日本のことをよく知っておかなければならないと感じ、交換留学生の高い日本語のレベルを見て、自分たちも外国語を頑張って勉強しようという気持ちになった。韓国語や韓国文化を学ぶだけでなく、物事の考え方や価値観にまでよい影響を与えている。以上日本人学生の言う交換留学生がいてよかった点をまとめると次のようなになる。

- ① 同世代から韓国の様子や日本に対する率直な意見が聞ける。
- ② 授業以外の普段の生活の中では留学生と接する機会がまったくないので、せめてこの時間だけでも同じ講義を受けることが出来てとてもうれしい。
- ③ 数名いるので、それぞれ違う意見、また男女別の意見を知ることができる
- ④ ネイティブの発音がたくさん聞けること。韓国語の発音が参考になる。
- ⑤ グループでの話し合いでは、疑問に思っていたことを聞けてよかった。
- ⑥ 外国の中で(韓国が)日本に近いと思えるいい機会だった。
- ⑦ 外国人から意見を聞くことの出来る機会があるのは、貴重、これからそういった授業が増えるとよい。
- ⑧ 中国の話も聞いてアジアの共通点があつたりしてうれしいと感じる。
- ⑨ 日本についての考えとかを本音で聞けるのがよい。
- ⑩ それぞれの考えが聞けて自分の考えと比べることが出来る点がよい。日本人が他の国々と比較して学ぶべきところが多いところを再認識させられ

た。柔軟にものを考えるにはよい機会になっている。

- ⑪ 考え方や価値観の違いを知れて勉強になった。
- ⑫ 年代が同じくらいなので自分たちの文化と純粹に比較できるのでよい。
- ⑬ 異文化に触れることが大事だということがこの講義を受けてよくわかった。
- ⑭ 先生から聞く韓国、メディアから聞く韓国、留学生から聞く韓国は違うと思うので、総合的に比較、判断出来るからよい。
- ⑮ 「外から見た日本」「外国人の思う日本」を知ることができた。
- ⑯ 普通の授業ではそのようなことは出来ないので、画期的だと思う。
- ⑰ 文化交流的な感じでよい刺激になっている。
- ⑱ 日本人だけの授業だと先入観にとらわれて狭い範囲でしかものを見られなくなってしまうが、留学生がいるともっと広い範囲でもものを見られるようになる。
- ⑲ 疑問に直に答えてもらえる。
- ⑳ はっきり意見が言える交換留学生から学ぶことが多い。貴重な経験になった。

4. 3 交換留学生の面

韓国の交換留学生が日本語や日本の文化を学びに来て、自国のことに関する授業を受講することは、無意味なことではないかと思いがちであるが、そうは思わない。交換留学生自身のためにも日本人学生のためにも韓国語・韓国文化の授業を受講することは、たいへん有意義なことだと確信している。

自分の国を離れてみると、当たり前になっていた自分の国のことが当たり前でなくなる。他の国のことを勉強することも大事であるが、その前に自分の国のことを知ることが先ではないかと思う。交換留学生にとって、韓国語・韓国文化の授業では、自分の国のことを振り返りながら、日本人学生との交流を通じて日本の文化が吸収できる場となった。

交換留学生が、韓国語・韓国文化の授業に参加してよかったと思う点をまとめると、次のようなものがある。

- ① 基礎的な韓国語の文法知識が増えた。
- ② 韓国語教授法について勉強になった。
- ③ よくわからなかった韓国語文法の勉強が出来た。外国語を専攻しているのに母国語の文法を知らないことは恥ずかしいことだと思った。
- ④ 日本人の友達から韓国語を聞かれたときにこの授業で習った文法知識を利用して説明が出来る。同年代の韓国に興味のある人と討論が出来てよかった。
- ⑤ 韓国語を教えることに自信がもてた。韓国に帰っても日本人の友達に韓国

語を一所懸命に教えたい。

- ⑥ 韓国語勉強の必要性を感じた。日本語と韓国語の文法を比較しながら面白い発見が多くあった。
- ⑦ 日本語と韓国語の語順が同じだから起きる日本語の誤用に気づいた。
- ⑧ 字幕付きの韓国映画を見て日本語の勉強になった。
- ⑨ 自分の国でありながらよくわからなかった現代の韓国がわかった。
- ⑩ 日本人学生に韓国の若者の考えや感じたことを聞かせ、日本人学生の率直な考えや意見が聞けてよかった。
- ⑪ 若者の文化の違いや考えについて、日本人学生に様々な意見や見方があることが興味深かった。

5. 終わりに

韓国語・韓国文化の授業では、韓国の交換留学生と日本人学生が交流の出来る授業をするために努めているが、今後の方針として、現在開設中の授業のいくつかをゼミに変換出来れば、もっと成果をあげることができると思う。日本人学生、交換留学生ともにそういった授業形態があることを望んでいる。

そして韓国の交換留学生だけでなく、韓国語・韓国文化の授業に参加している他の国の留学生も活用していきたいと思っている。今までは、授業の内容上、韓国の交換留学生を中心とした活用であったが、これからは学生達にとってアジアの国々、なおかつ世界へ視野を広げられるように他の国の留学生も活用していきたい。

以上で述べたように、韓国の交換留学生が韓国語・韓国文化の授業に参加することによって、お互いにより影響を与えているので、より多くの交換留学生が信州大学へ勉学に訪れてほしい。そして信州大学から海外の大学へ派遣する交換留学制度があるので、日本人学生には大いに利用してもらいたい。

【参考文献】

- 毛受敏浩 (2003) 『異文化体験入門』 明石書店
- ジョセフショルズ (1998) 『教室での異文化体験』 南雲堂
- 仁愛大学コミュニケーション学科編 (2003) 『コミュニケーションをデザインする』 行路社
- 吉沢柳子 (2002) 『青少年の国際交流』 丸善